

大阪通常・大阪小包郵便局（仮称）機械化設備の色彩計画

Color Planning of Machine and Interior in Osaka Post Office and Osaka Parcel Post Office

永田 泰弘
吉田 慎悟

カラープランニングセンター
〃

Yasuhiro Nagata
Shingo Yoshida

1. はじめに

大阪通常郵便局・大阪小包郵便局は大阪市此花区に、1994年の開業を予定に建設が進められている。両局は同一敷地内に隣接して建てられる4階建の機械化郵便集中局であり、1990年に開業した新東京郵便局・東京小包郵便局に次ぐ最新の大型局である。この東京の2局の色彩計画を参考に、不備な点を改善し、よりハイレベルな作業環境をつくることを目的に色彩計画が実施された。

2. 環境心理調査

この色彩計画では、大規模で機能重視の設計がなされる作業空間が、同時に心理的に満足できる作業環境となるよう、視覚的な構成要素と心理的評価の関係を明らかにする環境心理調査が東京工業大学乾正雄教授の指導の下に(株)環境計画研究所の手で行われた。その結論の中で色彩に関係する部分を色彩計画の資料として用いている。

環境心理調査はレパートリーグリッド発展手法を用い、31枚の作業空間のカラー写真を刺激として使用し、郵政省職員11名、一般10名の被験者に刺激写真の空間で作業することを想定して回答するよう教示して聴取り調査が行われた。

ヒアリング結果、クラスター分析結果、評価構造分析結果から、色彩計画に関わるキーワードとして第1表に示すものが抽出された。

3. コンセプトとカラーシステム

色彩計画のコンセプトは、表1のキーワードを集約して「快適性」「機能性」「個性」を重点テーマにし、「色彩環境新世紀」とした。

「快適性」を実現するカラーハーモニーは＜類似色相による調和＞を軸とし、「機能性」は＜カ

表1 環境心理調査キーワード

効率がよい	落ち着く	暖色系である
わかりやすい	広い	色が明るい
すっきりしている		アクセントカラー
働きやすい		色が統一されている
整然としている		植物の緑

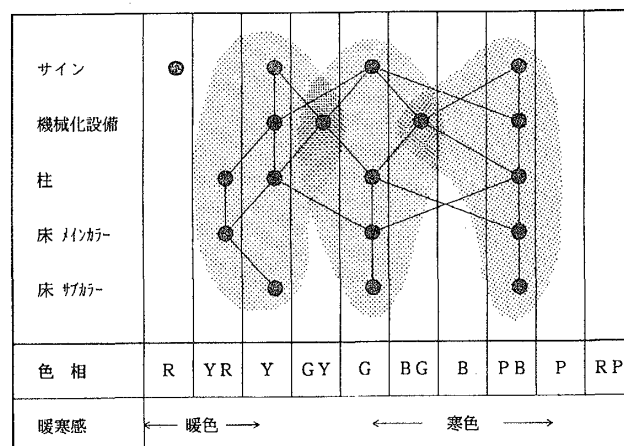


図1 作業環境の配色関係

ラーゾーニング＞で、「個性」は＜先端性と精密性を示すクール・アンド・ライト＞のカラーイメージを中心に据えることとして、全体のカラーシステムを構築した。図1に作業環境の配色関係を示す。また表2に使用色の一覧を、図2、図3に両局のカラーシステム図を示す。

4. 建築内装の色彩計画

壁面が極めて少ない両局の内装色は床色と柱色が主役となる。床は、分別の作業場と、到着と差立作業に使う発着場にカラーゾーニングしており、また階別にもカラーを分けている。更に発着場内ではパレット置場を機能面から色分けする方法を

表2 使用色一覧表

〔ソフトーン〕 ・設備色 ・扉色	M1 ソフトブルー 6.5PB 6/7	M2 ソフトブルー-グリーン 6BG 6.8/5	M3 ソフトイエロー-グリーン 4GY 6.8/6	M4 ソフトイエロー 6Y 7.5/6
〔ダークトーン〕 ・床色 ・メインカラー	F5 ダークブルー 3PB 4.5/2.6	F6 ダークグリーン 5G 4.5/0.9	F7 ダークブラウン 7YR 4.5/0.6	
〔ダルトーン〕 ・床色サブカラー ・扉色	F8 ダルトブルー 5PB 6.5/4	F9 ダルトグリーン 8G 6.5/2	F10 ダルトイエロー 8Y 6.5/4	
〔ライトグレイッシュトーン〕 ・柱色	P11 ライトグレイッシュブルー 5PB 7.5/3.6	P12 ライトグレイッシュグリーン 5G 7.5/2	P13 ライトグレイッシュイエロー 8Y 7.5/4	P14 ライトブラウン 10YR 7.5/3
〔ニュートラル〕 ・共通色	U15 オフホワイト 5Y 8.7/0.6	U16 ウォームグレー 10YR 7.5/0.8	U17 グレー N 6	
・アクセント カラー	A18 ビビッドレッド 7.5R 5/14		J19 ビビッドイエロー 2.5Y 8/14	J20 ブラック N 1
・サインカラー 大分類板面色 〔ビビッドトーン〕	S21 ビビッドブルー 7PB 5/10	S22 ビビッドグリーン 7G 6.5/10	S23 ビビッドイエロー 2Y 8.5/12	
・サインカラー 文字色 中・小分類板面色	S24 ホワイト N 9.5	S25 グレー N 5	S26 ダークグレー N 4	

採用した。床タイルの貼り方は従来の一色貼りではなく、2色による貼り分けで変化を出している。

床色は、ゴムタイヤのすり跡が目立たないようにダークなメインカラーにしている。床色は3組のツートーンカラーの組合わせと、共通色のグレーの計7色を設定している。一方、柱色はライトグレイッシュの4色と共通色のウォームグレーの計5色として下から2mまで塗装し、上部はオフホワイトを塗装している。有彩色は南と北側に、ウォームグレーは中央部に用いることで、位置表示の役割ももたせている。天井は共通色のオフホワイト、壁はウォームグレーを使用することを原則にしている。また、扉の色もカラーゾーニングのツールとして利用している。

5. 機械化設備の色彩計画

設備色はさわやかな寒色系にウエイトをおいたソフトーンの色を設定し、サブカラーはその内の1色を組合わせる方法を取り、大阪郵便集中局の方は階別とサイド（方角）別のカラーゾーニングを採用している。大阪小包郵便局は1階に設備が集中しているため、4色を全て使用し、機能別

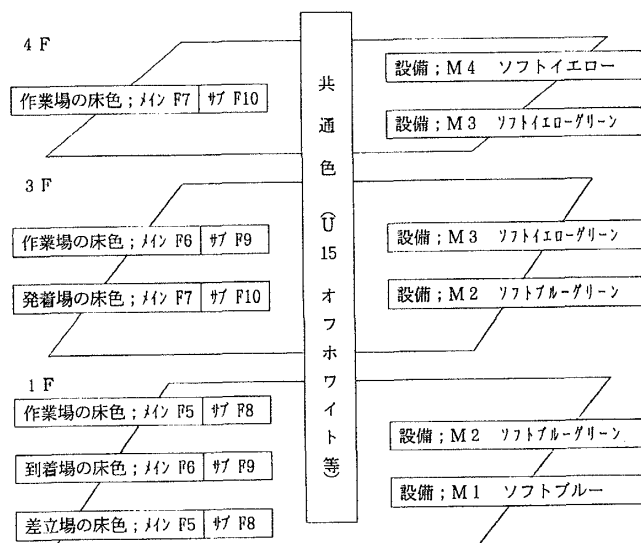


図2 通常局の階別カラーシステム

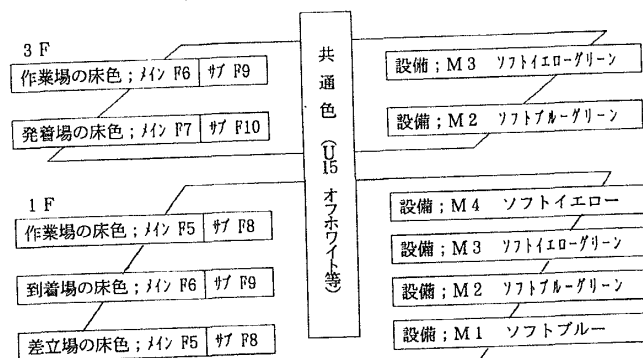


図3 小包局の階別カラーシステム

のカラーゾーニングとしている。

6. サインボードの色彩計画

サインは大分類板面に高彩度の赤黄緑青の4色を用い、中分類の板面色は4色のライトグレイッシュトーンの4色とオフホワイトを交互に組合わせるプランとした。文字は、黄にダークグレーを、他の3色に白をあてている。

7. おわりに

作業環境の色彩計画の代表的なものになることを願って設計を進めたが、評価は開業した後に出るものである。作業環境の向上に色彩が貢献していることが証明されると環境色彩に携わる者として嬉しい。